

令和4年12月6日

十番区区長

様

三田市長 森 哲 男



三田市管理のどんとゲート水門開閉基準、  
定期点検記録の公開及びその他要望について（回答）

平素は、市行政各般にわたり、格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
さて、令和4年8月3日にご要望いただきました内容につきまして、下記のとおり回答します。

記

1 水門ゲート開門基準について

開門基準について従来からの変更はなく、天気予報や報道等で予め豪雨等によって急激な水位上昇が予想される場合は、水利権者である寺村農会に報告を入れた後、市職員により事前にゲートを全開にしております。したがって、要望書にありますが警報が発令しない限り開門しないという運用は行っておりません。

住民の方より開門依頼をいただいたことがありましたが、依頼当日の降雨予想はなく、注意報の発令もされていなかったことから、開門の必要がない旨説明させていただきました。

今後の開門基準といたしまして、具体的には気象庁による警報予測が『高』となった場合や落雷予報に合わせて豪雨が予想される場合、開門を行うことといたします。

尚、ゲートを全開にする際は、原則、市役所の開庁時間（年末年始を除く、平日9：00～17：30）に行うよう努めております。

2 水門ゲートの安全性について

水門ゲートは、三田市で年1回専門業者による点検を実施しており、4月には寺村農会と三田市で取水期を前に合同点検を行っております。また、寺村農会が取

水のためにゲートの操作を行う5月～10月については週に2回の操作を行っており、何らかの異常が確認されたら、三田市に連絡が入ることとしております。双方の点検により十分な安全性の確保が出来ていると考えております。

点検結果に関しましては、異常が確認されれば直ちに修繕することとしており、工事が必要な場合や修繕が長期となる場合につきましては区長様への連絡ならびにどんとゲートに内容の掲示をいたします。

尚、水門ゲートが開かなかった事案に関しましては、センサーにゴミが付着し感知しなかったものではなく、水位計の故障によるものでしたが、既に交換が完了しております。

### 3 水門ゲート雨天時の閉門理由

寺村農会に確認を行ったところ、少量の降雨時にはゲートの閉門は必要ですが、雨が続く時や豪雨の際は十分な用水の確保ができるため、閉門の必要はないとのことです。

### 4 その他要望事項

#### (1) 水門ゲートの開門に関する過去の対応及び公文書の管理について

要望書に書かれている内容は誤解があり、文書によっては3年や5年で廃棄するものもあるという説明を行った事実しかありません。当然ご指摘の文書も適正に管理されており、開門基準につきましても前任の担当者より引き継がれ、まとまった雨が予想される場合は前もって開門しております。

尚、文書管理につきましては三田市文書取扱規程に基づき管理しており、どんとゲートに関する書類に関しましては重要なものと判断し10年保存としていますが、今後は重要度を上げることにいたします。

#### (2) 平成26年8月16日の浸水被害時での補償について

当時の被害が補償の対象となるという説明は行っておりません。今後被害が発生した際に補償がしてもらえないかとの質問に対し、水門ゲートが適正に管理されず管理瑕疵によって発生した損害については国家賠償法に基づく補償の対象になる可能性があります。天変地異等想定を超える災害でゲートの有無に関わらず発生したものは対象にならない旨説明させていただきました。

(3) 水門ゲートより下流の武庫川放水までの水路の容量について

流域から算出した雨水量 6.432 m<sup>3</sup>/sec に対し、下流断面の流下能力は 13.503 m<sup>3</sup>/sec となっております。現在の水路で約 2 倍の流下能力を有していることから、改修の必要はないと考えております。

(4) 水門ゲート自動開閉のセンサー機能の説明について

現在の水位設定につきましては、ゲートの高さ 138 cm に対し 143 cm の水位となった時点で開門するように設置しております。したがって、水門の天端高さより 5 cm 越水した時点で開門いたします。また、再び開門が行われるのは水深が 15 cm 未満となり且つ 1 時間が経過すれば開門が始まります。

過去に開門となる水位設定の変更を試みましたが、現在の 143 cm より低く設定を行ったところ、寺村区に送水される前にゲートが開放してしまうことから変更を見送った経緯があります。したがって、現在の仕様からの変更は物理的に不可能となります。

(5) 水門ゲート管理体制の強化について

住民様からの提案をいただき、令和 4 年 3 月 25 日に監視カメラを設置し、24 時間必要な時に現場状況が確認できるようにしております。

(6) 水門ゲート開閉時期の作業時間について

寺村農会にご意見をお伝えさせていただきました。

最後にどんとゲートに関しましては、本来速やかな排水を目的とする雨水幹線と用水利用のための閉門施設という市街地排水における構造的矛盾が存在しています。いかなる場合においても浸水被害が生じないように適正管理に努めておりますが、ゲートの撤去を行わない限り根本的解決を図ることはできません。

三田市といたしまして、今後浸水被害対策と農業用水の確保の双方を解決すべく、各関係者と協議を行いながら、ゲート撤去に向け調査研究を行ってまいります。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○お問い合わせ

まちの再生部 地域整備室 道路河川課

電話 559-5101

三 道 第 1 0 0 号  
令和 4 年 1 2 月 6 日

十一番区区長

様

三田市長 森 哲 男



三田市管理のどんとゲート水門開閉基準、  
定期点検記録の公開及びその他要望について（回答）

平素は、市行政各般にわたり、格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
さて、令和 4 年 8 月 3 日にご要望いただきました内容につきまして、下記のとおり回答します。

記

1 水門ゲート開門基準について

開門基準について従来からの変更はなく、天気予報や報道等で予め豪雨等によって急激な水位上昇が予想される場合は、水利権者である寺村農会に報告を入れた後、市職員により事前にゲートを全開にしております。したがって、要望書にありますが警報が発令しない限り開門しないという運用は行っておりません。

住民の方より開門依頼をいただいたことがありましたが、依頼当日の降雨予想はなく、注意報の発令もされていなかったことから、開門の必要がない旨説明させていただきました。

今後の開門基準といたしまして、具体的には気象庁による警報予測が『高』となった場合や落雷予報に合わせて豪雨が予想される場合、開門を行うことといたします。

尚、ゲートを全開にする際は、原則、市役所の開庁時間（年末年始を除く、平日 9：00～17：30）に行うよう努めております。

2 水門ゲートの安全性について

水門ゲートは、三田市で年 1 回専門業者による点検を実施しており、4 月には寺村農会と三田市で取水期を前に合同点検を行っております。また、寺村農会が取

水のためにゲートの操作を行う5月～10月については週に2回の操作を行っており、何らかの異常が確認されたら、三田市に連絡が入ることとしております。双方の点検により十分な安全性の確保が出来ていると考えております。

点検結果に関しましては、異常が確認されれば直ちに修繕することとしており、工事が必要な場合や修繕が長期となる場合につきましては区長様への連絡ならびにどんとゲートに内容の掲示をいたします。

尚、水門ゲートが開かなかった事案に関しましては、センサーにゴミが付着し感知しなかったものではなく、水位計の故障によるものでしたが、既に交換が完了しております。

### 3 水門ゲート雨天時の閉門理由

寺村農会に確認を行ったところ、少量の降雨時にはゲートの閉門は必要ですが、雨が続く時や豪雨の際は十分な用水の確保ができるため、閉門の必要はないとのことです。

### 4 その他要望事項

#### (1) 水門ゲートの開門に関する過去の対応及び公文書の管理について

要望書に書かれている内容は誤解があり、文書によっては3年や5年で廃棄するものもあるという説明を行った事実しかありません。当然ご指摘の文書も適正に管理されており、開門基準につきましても前任の担当者より引き継がれ、まとまった雨が予想される場合は前もって開門しております。

尚、文書管理につきましては三田市文書取扱規程に基づき管理しており、どんとゲートに関する書類に関しましては重要なものと判断し10年保存としていますが、今後は重要度を上げることといたします。

#### (2) 平成26年8月16日の浸水被害時での補償について

当時の被害が補償の対象となるという説明は行っておりません。今後被害が発生した際に補償がしてもらえないかとの質問に対し、水門ゲートが適正に管理されず管理瑕疵によって発生した損害については国家賠償法に基づく補償の対象になる可能性があります。天変地異等想定を超える災害でゲートの有無に関わらず発生したものは対象にならない旨説明させていただきました。

(3) 水門ゲートより下流の武庫川放水までの水路の容量について

流域から算出した雨水量  $6.432 \text{ m}^3/\text{sec}$  に対し、下流断面の流下能力は  $13.503 \text{ m}^3/\text{sec}$  となっております。現在の水路で約2倍の流下能力を有していることから、改修の必要はないと考えております。

(4) 水門ゲート自動開閉のセンサー機能の説明について

現在の水位設定につきましては、ゲートの高さ  $138 \text{ cm}$  に対し  $143 \text{ cm}$  の水位となった時点で開門するように設置しております。したがって、水門の天端高さより  $5 \text{ cm}$  越水した時点で開門いたします。また、再び閉門が行われるのは水深が  $15 \text{ cm}$  未満となり且つ1時間が経過すれば閉門が始まります。

過去に開門となる水位設定の変更を試みましたが、現在の  $143 \text{ cm}$  より低く設定を行ったところ、寺村区に送水される前にゲートが開放してしまうことから変更を見送った経緯があります。したがって、現在の仕様からの変更は物理的に不可能となります。

(5) 水門ゲート管理体制の強化について

住民様からの提案をいただき、令和4年3月25日に監視カメラを設置し、24時間必要な時に現場状況が確認できるようにしております。

(6) 水門ゲート開閉時期の作業時間について

寺村農会にご意見をお伝えさせていただきました。

最後にどんとゲートに関しましては、本来速やかな排水を目的とする雨水幹線と用水利用のための閉門施設という市街地排水における構造的矛盾が存在しています。いかなる場合においても浸水被害が生じないように適正管理に努めておりますが、ゲートの撤去を行わない限り根本的解決を図ることはできません。

三田市といたしまして、今後浸水被害対策と農業用水の確保の双方を解決すべく、各関係者と協議を行いながら、ゲート撤去に向け調査研究を行ってまいります。ご理解のほどよろしく願いいたします。

◎お問い合わせ

まちの再生部 地域整備室 道路河川課

電話 559-5101